

—コロナ特集号—

2015年から6年間のJAICOWSの活動総括と、2020年の展望

JAICOWS 会長 羽場 久美子

2015年1月の総会から原ひろ子先生より会長を引き継いでから足掛け6年になる。

2020年10月より、新体制として白波瀬佐和子会長、伊藤美千穂副会長、海妻径子事務局長、栗田禎子企画委員長に新しく引き継いで頂くことになり、大変嬉しく、ありがたく思っている。

この間の2期6年を振り返り、1) 世界ジェンダー情勢、2) 学会会議の動き、3) JAICOWSの活動をまとめ、JAICOWSの研究会の成功や非常勤のアンケートの成果も紹介して総括としたい。

1) 世界ジェンダー情勢と日本 2015年から2020年までの世界の中の日本のジェンダー状況は決して順調とは言えなかった。毎年12月に報告される世界経済フォーラム（WEF）のジェンダー不平等状況を示す「世界ジェンダー・ギャップ指数2019年」によると、2015年101位、2016年111位、2017年114位と毎年順位を落とし、2018年110位と若干回復したものの、2019年には世界153カ国中121位と過去最低となった。1位から5位は、アイスランド、ノルウェー、フィンランド、スウェーデン、ニカラグア。日本はOECD先進国の中で最低であるばかりか、中国106位、韓国108位にも負け、世界の中でも後ろに30カ国余しかない状況となった。先日東大のジェンダー会議では教授に言葉のハラスメントを受けたイスラムの院生から、「日本の性差別はイスラム圏よりもひどい」という言葉も聞いた。何が問題か？上野さんは「ごめん」と言われた。いや問題は日本の政治と社会。2020年は何としても挽回したい。まずは自分のまわりの女性、ジェンダーの人権を1つ1つ保護していくことから、であろう。

2) 学会会議ではこの間順調に202030という基準を前倒し達成し既に24期に女性会員3割、連携会員28%を達成した。25期もこれを上回る成果を期待している。男女共同参画を学会レベルで実現するためのアンケートや様々なシンポジウム、会長副会長の4人の内2名が女性という状況が2期続き、学会会議でのジェンダー状況はかなり改善された。今後は大学、企業さらに政治と社会における女性の地位・環境改善であろう。数年後は、女性会長も目指されればありがたい。

3) JAICOWSでは、島田先生から原先生まで脈々と受け継がれてきた伝統ある学会会議の女性科学研究者の環境を改善する動きをどれだけ実現できたかは心もとない。しかし田原淳子先生という優れた事務局長と共に、当時90人のJAICOWS会員から学会会議の会員・連携会員にNews Letterを配布し会員になって頂く広報を募る中で、新しい会員が30人以上も増えて会員数127人まで達したのは嬉しいことであった。海妻先生たちと共に学会会議の講演会で「女性の貧困：非常勤や若手研究者の問題」について何度もシンポを持ったり、非常勤の雇止めで早稲田や日大で大きな問題が起こる中、「非常勤講師緊急アンケート」を取り、袖井先生・直井先生のご協力の下、700人を超える切々たるアンケートを集め分析したのも、手ごたえのある仕事であった。それは今年9月にJAICOWSの成果として『非常勤講師はいま』のブックレットとして出版予定である。ありがとうございました。

また講演会についても、大学の授業と合わせ、辻村みよ子先生、廣瀬真理子先生、大澤真理先生、上野千鶴子先生、浅倉むつ子先生など錚々たる先生方に、最先端のジェンダー問題について語って頂いた。

また田原先生のアレンジの下オリンピックとジェンダーのシンポも時宜を得て公開した。これらは時に300人を超える参加から少人数の白熱した議論まで、多角的にジェンダー問題を考えなおすきっかけとなった。講師の皆様には心より感謝する。2020年6月には伊藤美千穂先生、海妻径子先生の初のオンライン講演に100名を超える方々が参加して下さり、活発な議論が交わされた。全国を結んだオンライン講演は今後も続けていきたい。皆様のご講演もぜひお願いします！

4) 2020年の抱負としては、コロナ禍の中、高齢者・弱者・女性ジェンダーを大切に、若手会員を増やし全国の会員の皆様のご協力によりさらに会を活性化させていきたい。白波瀬先生をはじめとする新執行部のリードでさらに新しい会員が増え、伊藤・海妻・栗田諸先生の下で京都や大阪、東北にも会を拡大し、ますます活発な活動を期待したい。ぜひ今後もJAICOWSにご協力の程、宜しく願い致します。2期6年間、皆様には本当にお世話になり、誠にありがとうございました。

JAICOWSの皆様と共に、日本の政治・経済・科学・社会で女性が輝く未来を実現していきましょう！

2019年度 JAICOWS 総会報告

(総会前に役員会が行われたが、内容は総会と重複するので割愛する。)

日 時：2020年2月9日(日) 13:00~14:45

会 場：青山学院大学 青山キャンパス 総研ビル10階 第18会議室

出席者：7人 委任状：22人

原先生をしのび、感謝と会の発展を誓い、黙祷。

議 長：羽場久美子(会長)

議 事：

報告事項

1. 2019年度活動報告について
羽場会長より資料1に基づいて報告され、承認された。
2. 2019年度会計中間報告について
田原事務局長より会計中間報告が報告され、承認された。NLでは資料2としてその後あきらかになった2019年度最終決算報告を下記に掲載する。

審議事項

3. 2020年度事業計画について
羽場会長より、資料3に基づいて提案され、了承された。
4. 2020年度予算案について
田原事務局長より、資料4に基づいて提案され、承認された。
5. 新役員候補の提案について
羽場会長より、新役員として伊藤美千穂氏、栗田禎子氏、海妻径子氏、白波瀬佐和子氏の内諾が得られている旨の説明があり、承認された。
6. 日本学術会議会員・連携会員以外の会員の拡大について
 - ・総会では会員を学術会議会員以外にも拡大するという点が承認された。その上で拡大の基準について全会員に通知・承認を得ることになった。(その後メール審議により承認)
 - ・学術会議の会員、連携会員以外に拡大する場合、原則、1)次期日本学術会議の会員・連携会員に推薦できる方、2)女性研究者の環境改善に力を尽くしてくださる方、3)会費納入に積極的な方、を条件とする。

その後原則、次の学術会議の会員・連携会員に推薦する方向で承認された。

・日本学術会議の会員・連携会員の横のつながりを発展させていくことが重要。

7. 3年以上未納者の支払い催告と3月末日の除籍について

会計担当からの提案：他学会も基本的にそのようになっており、文科省の指導もある。

9年滞納者3名、8年滞納者2名あり、該当者と知り合いの役員が声かけをするが、8年以上の滞納者については、催告した上での除籍はやむを得ない。

8. 新入会員の承認：栗田禎子氏、海妻径子氏

9. 次回は、2020年5～6月頃に新役員を迎えて役員会を開催することになった

資料1 2019年度活動報告

(1) 役員会の開催（2019年7月11日、12月12日、2020年2月9日）

(2) 総会の開催（2020年2月9日）

(3) 講演会・シンポジウムの開催

●講演会1「これから女子の生きる道—ネオリベリズムとジェンダー—

男女共同参画はゴールか、ツールか？」

日 時：2019年7月11日 13:20～14:50

会 場：青山学院大学 本多国際会議場12階 大会議室

講 師：上野千鶴子（東京大学名誉教授）

●講演会2「女性の権利を国際基準に！女性差別撤廃条約40周年」

日 時：2019年12月12日 13:20～14:50

会 場：青山学院大学 本多国際会議場12階 大会議室

講 師：浅倉むつ子（早稲田大学名誉教授）

●シンポジウム「からだと心・オリンピック・スポーツとジェンダー」

日 時：2020年2月9日 14:00～17:00

会 場：青山学院大学 総研ビル10階 第17会議室

講 師：跡見順子（東京大学名誉教授）「自分の体を俯瞰する心身一体科学」

庄司信明（元朝日新聞スポーツ担当記者）「オリンピックとスポーツ・ジェンダーを考える」

コメンテーター：袖井孝子、国枝たか子

司 会：田原淳子

(4) ニュースレターの発行

・第39号 2019年7月26日発行

・第40号 2019年12月6日発行

(5) 非常勤講師を対象としたアンケート調査の分析

アンケート調査の結果を分析し、ブックレットを作成、今年度中に出版予定。

(6) ホームページの更新

資料 2 2019年度会計決算報告（承認）

総会では、2020年1月31日付の会計中間報告がなされましたが、ここでは、年度末3月31日付の2019年度最終決算報告を掲載します。

JAICOWS 2019年度 決算報告書

2020年3月31日現在

1. 収入の部

単位：円

勘定科目	2019年度予算	2019年度決算報告	予算比	備 考
会 費	430,000	530,000	100,000	
利 子	0	0	0	
寄付金他	0	5,000	5,000	
前年度会費繰越	25,000	25,000	0	
前年度繰越金	75,167	75,167	0	
収入合計	530,167	635,167	105,000	

2. 支出の部

勘定科目	2019年度予算	2019年度決算報告	予算比	備 考
通 信 費	10,000	18,311	8,311	
Newsletter 印刷費	90,000	87,200	-2,800	39、40号
Newsletter 発送費	20,000	25,364	5,364	39、40号
行 事 費	20,000	26,500	6,500	講師謝金、慶弔費等
会 議 費	20,000	23,042	3,042	弁当代等
事 務 費	20,000	20,000	0	HP 作業費等
学会業務委託費	150,000	150,000	0	月1万+会費請求督促業務年3万
会計特殊業務 (2019年度のみ)	30,000	30,000	0	新規口座開設等
消 耗 品	20,000	8,818	-11,182	印刷用紙、宛名シール等
ワールドプランニング 精算	37,789	37,789	0	(No.38号印刷送付代)
振込手数料	5,000	2,391	-2,609	
支出合計	422,789	429,415	6,626	
次年度繰越金 (収入-支出)	107,378	205,752	98,374	収入と支出の差額

* ワールドプランニングから移行し会費収入も増えて健全運営となり、今年は20万の繰越金が出ました。

資料 3 2020年度事業計画案について

- 1) 役員会の開催
- 2) 総会の開催
- 3) 研究会・シンポジウムの開催
- 4) ニュースレターの発行 (2回)
- 5) 非常勤講師に関する実態調査についての小冊子の発行
- 6) その他 (女性研究者を活性化する活動など)
 - (1) 新役員候補承認 伊藤美千穂、海妻径子、栗田禎子、白波瀬佐和子 各氏
 - (2) 会員枠の拡大 (1割を学術会議の外へ：女性研究者の環境改善のため)

資料 4 2020年度予算案 (承認)

JAICOWS 2020年度 予算書

2020年3月31日現在

1. 収入の部

単位：円

勘定科目	2019年度予算	2020年度予算	前年比	備考
会費	430,000	450,000	20,000	
利子	0	0	0	
寄付金他	0	0	0	
前年度会費繰越 (2019年度のみ)	25,000	0	-25,000	
前年度繰越金	75,167	205,752	130,585	
収入合計	530,167	655,752	125,585	

2. 支出の部

勘定科目	2019年度予算	2020年度予算	前年比	備考
通信費	10,000	10,000	0	
Newsletter印刷費	90,000	90,000	0	年2回
Newsletter発送費	20,000	20,000	0	年2回
行事費	20,000	50,000	30,000	講師謝金、慶弔費等
会議費	20,000	20,000	0	弁当代等
事務費	20,000	50,000	30,000	HP作業費等
学会業務委託費	150,000	150,000	0	月1万+会費請求督促業務年3万
会計特殊業務 (2019年のみ)	30,000	0	-30,000	新規口座開設等
消耗品	20,000	20,000	0	印刷用紙、宛名シール等
ワールドプランニング精算	37,789	0	-37,789	(No.38号印刷送付代)
振込手数料	5,000	5,000	0	
支出合計	422,789	415,000	-7,789	
予備費 (次年度繰越金) 収入-支出	107,378	240,752	133,374	収入と支出の差額

シンポジウム報告

「からだと心・オリンピック・スポーツとジェンダー」

日 時：2020年2月9日 14:00～17:00

会 場：青山学院大学 総研ビル 10階 第17会議室

1. オリンピックとスポーツ・ジェンダーを考える

庄司 信明（元朝日新聞スポーツ担当記者）

2019年12月に世界経済フォーラムが「男女平等ランキング」を発表した。日本は153カ国中、過去最低の121位。これは政治・経済・教育・健康の4分野における指数で計算しているが、スポーツ界も例外ではないと言わざるを得ない状況だ。

日本スポーツ協会加盟団体の女性役員の割合を見ると、約1割。国際的には4割を目標にしている。日本スポーツ協会（JSPO）本体と日本オリンピック委員会（JOC）の女性役員の割合を見ても、だいたい2割前後。この数値が、今の日本スポーツ界における男女格差を端的に表している。

メディアが女性アスリートを報道するとき、そこにいかに男女の格差が存在しているか。簡単にいえば、いかに男目線で報道しているか。特にオリンピックスポーツに関わる女性アスリートの語られ方を見てみると、それが如実に表れる。

これまでジェンダーを専門とする先生がたの報道に関する批判は、次の三つに集約される、という。その三つとは、①女性アスリートを幼児化、性愛化してみる ②とりわけアスリートの周辺のことを取り上げる。これを周縁化と呼ぶ ③ことさらアスリートの業績を矮小化する傾向がある。

この批判について、単に幼児化といっても周縁化や矮小化とも複雑に絡みあっている。幼児化のわかりやすい例として、女性アスリートの場合、ファーストネームで呼ぶ頻度が高い、ということがある。例えば、「あいちゃん」といった感じで報道すると、なんか男より下に見ている、あまりリスペクトしていない、といった印象を与えるようだ。しかし、一方で親しみがあっていい、という意見もある。性愛化は、外見やセクシーさに注目してしまう、ということ。女子ゴルフやテニスといった報道写真を見れば、それはよくわかる。

周縁化については、いろいろと賛否がある。新聞の話でいうと、この話はどこの面（1面、社会面、スポーツ面など）に掲載するかで、状況がだいぶ変わってくる。私の感覚でいうと周縁化の話は社会面で、というのがある。これは男女問わず、業績周辺の話は、お話風にしてスポーツ面以外のところで載せる、という新聞のスタイルがあるからだ。

矮小化と周縁化とは、結構密接に結びついていて、報道の量でいえば、確かに女性アスリートの記事は圧倒的に少ない。これは日本のスポーツ報道は、野球、サッカー、大相撲などが中心に動いてきたという歴史があるからだ。しかし、オリンピック全ての競技で女子選手が活躍するようになり、日本においてはほぼ男女同数の選手たちが出場している現在では、オリンピック報道では男女ほぼ同じ記事量になってきた。

これからは役員ばかりなく女性指導者がどんどん出てくるべきだ。現在、バレー、サッカー、卓球、マラソンなどで女性監督が活躍されているが、これは男女のチーム問わず、女性のトップが多くなったほうがいい。その兆候は確実に現われている。

〈シンポジウムのもう1本の講師跡見順子先生の講演内容はまたの機会に掲載させていただきます〉

会員のご執筆

研究フィールドとしての身体文化の可能性—性別二元制にもとづく不平等の解消をめざして— 来田 享子 (中京大学教授)

ジェンダー不平等の基盤には、性別二元制があることが指摘されている。また、人の性 (SOGI) は多様であり、女/男という2つのカテゴリーに集約されるわけではない。一方、スポーツ、とりわけ競技を実施する場面では、両性を厳格に区別して競技が実施されてきた。

性別に競技を行うことは、スポーツにおける公平性や公正性にとって重要だと考えられてきた。では、私たちが日常的にメディアを通じて触れるスポーツは、いったい「何を」競っているのだろうか。近代以降に欧米を中心に発達したスポーツは、骨格が大きく、筋量が多い人が有利になる競技が多くを占めている。骨格や筋量における有利さをどのように発揮できるか。技術との融合の中でどのように骨格や筋量における不利さを乗り越えられるか。それらが勝敗の鍵を握っている。

例外はあるものの、骨格の大きさや筋量は、平均的には女性よりも男性の数値が高くなる。「男性のほうが女性よりもスポーツのパフォーマンスが高い」というものの見方は、一面的には正しいといえるだろう。しかし、そもそもそのような結果になる活動のみをとりあげ、それがすべてであると思込ませる影響がある点は、大いに問題だといえる。

身体に関わる文化は、欧米中心に発展した近代スポーツだけではない。より豊かで、多様な身体文化が存在する。スポーツのイベントが国際化し、商業化し、一方的な情報がメディアを通じて受け止められる中で、そうした豊かさは忘れられがちになる。競技的なスポーツ、そこでの勝敗への過剰な傾倒は、身体文化の価値そのものを一元化してしまう危惧をもたらしている。

トップレベルのスポーツばかりを目にしていると、両性の身体には圧倒的なパフォーマンスの差があると考えがちである。一方、身近な例で考えれば、簡単に気づくことがある。たとえば、トップレベルの女子スピードスケート選手に、私たちの周囲にいる何人の男性が勝てるだろうか。

ごく一部のトップレベルの競技を除けば、スポーツのパフォーマンスの差は、男女差としてではなく、個人差として捉える視点が必要だ。この視点を欠いたことにより、スポーツが苦手な男子は居心地が悪く、女子には激しすぎるからサッカーやラグビーは向いていないと決めつける時代が長く続いてきた。そうした決めつけの中で、人間の身体の可能性、ひいては存在としての可能性は、性によって異なる制約を受けてきた。

スポーツは身体に関わる文化であるために、性別二元制が浸透し、社会のジェンダー観やジェンダー規範が色濃く反映される。だからこそ、性にもとづく不平等への気づきや性別二元制の見直しを検討するための重要な研究フィールドになり得ると考えている。

このような視点で編集した図書が『よくわかるスポーツとジェンダー』（飯田貴子・熊安貴美江・来田享子編、ミネルヴァ書房、2018年）である。関心のある方に、ぜひご覧いただきたい。

新役員体制の紹介

昨年末、原ひろ子先生のご逝去を受け、「今頑張らなければどうする?!」と危機感を抱き、原先生のお葬式に集まれた方々をはじめ、急遽重要な方々にお声がけさせていただいた。皆様、「ジェンダー改革の必要性を今こそ!」と認識してくださり、各国・各大学から、御快諾をいただいた。

ベトナム調査の最中、御快諾下さった伊藤先生、偲ぶ会でお会いし新幹線の中で事務は得意です!と引き受けて下さった海妻先生、学術会議の会合の直後のお話でご協力を約束下さった栗田先生、東大のお仕事のお忙しい中、決意下さった白波瀬先生、どなたにも本当に心からの感謝でいっぱいです! 会員の皆様もぜひ自薦・他薦でJAICOWSの仕事にご参加ご協力ください。ありがとうございます!

次期会長を拝命いたしました白波瀬佐和子と申します。専門は社会学です。少子高齢化で代表される人口構造の変容に着目して、社会階層論の立場から不平等に関する実証研究に取り組んできました。不平等についてマイクロデータ分析を中心に国際比較の観点からも検討して実態把握を進めるとともに、そのメカニズムの解明という観点から理論的検討を行い、さらに不平等の縮小を目指して社会保障制度を中心に政策的な検討を進めています。特に、ジェンダーと世代は、社会的な不平等を検討するにあたって中心的な分析軸であり、依然そこにある格差は大きく、顕著な改善が認められません。

特に、日本は欧米と同様に女性の高学歴化が進行した一方で、社会的な発言力という点ではまだまだ不十分です。エビデンスベースの政策議論がまさに求められるいま、女性研究者による貢献は待ったなしの状況にあります。1994年、日本学会議第15期第118回総会において、「女性科学研究者の環境改善の緊急性について（声明）」が採択されたことを受け、我々の大先輩である一番ヶ瀬先生と原ひろ子先生のご尽力でJAICOWが結成された歴史とその意味の重要性を再確認しています。みなさまとご一緒に本会を盛り上げていければ思っております。どうかよろしくお祈りいたします。

JAICOWS 次期副会長

News Letter 伊藤 美千穂（京都大学大学院薬学研究科）

京都大学大学院薬学研究科におります伊藤美千穂です。学会議では22期から連携会員を務めさせていただいており、JAICOWSではNLを担当させていただくことになりました。所属は薬学ですが、薬用生物学・生薬学を専門とし、研究手法に現地調査も利用するし、薬用植物の栽培研究やそれらを利用した地域活性化プロジェクトに参画するなど、ラボにこもりっきりの一般的薬学研究者とはかなり趣が違うかもしれません。厚生労働省や各種学会関連の会議等で東京圏への出張が非常に多く、また各種国際会議出席のための外国出張、海外での現地調査もするので、スケジュールは賑やかです。また、研究ではおのの薬理、精油成分の生合成研究、生薬のレギュラトリーサイエンス、薬用植物の栽培研究などがキーワードになるでしょうか。京大薬学部は学生数では女性のほうが多い学年もありますが、女性教員数は1割に届かず、女性教授は歴史上存在したことがない部局で、伊藤は18歳で学部へ入学し、大学院を経て1996年助手に採用され、2003年以來ずっと准教授を務めています。ラボの教育ポストは自分だけで12～3名の学部、修士、博士課程の学生を指導しています。これからもどうぞよろしくお祈りいたします。

JAICOWS 次期事務局長

海妻 径子（岩手大学人文社会科学部）

約10年の専従非常勤生活を経て、37歳でようやく常勤の職に就くことができました。非常勤時代の慌ただしい育児、常勤職について数年で始まった断続的な実父と義父母の介護など、いろいろな経験の中で、大学や研究所など研究職の職場が改善せねばならないことは、まだ数多く残されていると実感して参りました。

研究の世界に対する新自由主義的な改革は、未だその勢いに衰えが見えず、私の所属大学では、非常勤の5年での常勤転換を避けるために、全非常勤講師を個人事業主化したと、最近聞きました。国が今後どれだけ運営交付金を削減するか不明な中で、常勤転換は難しい、という大学運営側の主張も、わからなくもなく、でもそうであれば、「一生を研究に捧げよう」と思ったりなどしてはいけない、ということではないか、と憤りも湧いてきます。

このような中で「いまは男性研究者も大変だから……」と言われてしまいがちですが、女性研究者の問題の解決が、きちんと再生産労働にも従事する男性研究者にも公正な、アカデミズムの世界をつくると信じています。会員のみなさまのお力を借りて、そのような世界に少しでも近づくための活動を行うことができれば嬉しく思っております。

（他の新役員は、次号で紹介させていただきます）

JAICOWS オンライン講演会

JAICOWS オンライン講演会が、学部生の公開授業と共同で、青山学院大学 Webex Meeting で7月2日 1:20-2:50、「国際社会の中のジェンダー問題」と題して開かれました。•日本のジェンダーギャップ指数（男女格差指数）は、なぜ、世界153カ国中、121位なのか？•先進国中最低、世界の中でもボトムに近く中国韓国より低い。その実態とは？ と題し、活発な議論が繰り広げられました。

講演者：伊藤 美千穂（京都大学・日本学術会議・連携会員）

「京都大学におけるジェンダー問題」

海妻 径子（岩手大学・日本学術会議・連携会員）

「文化・教育政策の民営化・モジュール化とジェンダー」

学生を含む100人以上の参加者が全国から集い、理化学研究所の望月さんなど、会員からも自然科学のジェンダー問題をさらに掘り下げて議論したほうがよいというご提言もいただいた。望月さん、ぜひご講演ください！今後も、全国から参加可能性のあるオンライン講演会を試みていきたい。

特集 コロナ・緊急事態宣言下をどう過ごしたか、どう感じたか

特定のウィルスの感染拡大を恐れて緊急事態宣言が出されるというような事態が起こるとは、ほとんどの人が予想だにできなかったことである。歴史に残るようなこの事態をどう過ごされ、あるいはどう感じられたかを何人かに伺った。このことの歴史的意味というような大上段な議論ではなく、単純にどう過ごし、どう感じたか身近な感想をいただきたいとお願いした。（掲載は順不同）

コロナとネットワーク構築

羽場 久美子（青山学院大学）

2月、武漢で100年に1度の大変な疫病が始まったというニュースから5か月。たった5か月で世界が変わった。3月半ばに世界中から研究者を集めて学術会議の国際会議「世界戦争100年と新国際秩序の模索」を開催予定であった。学術会議も京都大学の先生も「やりましょう！」と進めていた所、急遽風向きが変わり延期、あとは飛行機とホテルのキャンセルに追われた。それでも何とか国際会議論文集を刊行し全世界に向け3月31日にEMSで送った所、4月1日から郵便局の海外発送がストップ。結局6月の末に全て戻ってきた！しかし一番大変だったのはエッセンシャルワーカーの方々だったことであろう。医療関係者、毎日のごみ処理の方々、郵便局、新聞配達の方。感謝、感謝である。

大学教員も、緊急事態宣言の中、5月から途方に暮れる学生たちの前でオンライン授業を開始した。最初は目が回るほど大変に思えたオンライン授業もまず学生から慣れ、会う度大喜びし、お互い顔の見える授業は通常のゼミや大学院指導と変わらない親密さとなった。

ジェンダー研究会では、オンライン講義を快く引き受けて下さった京都の伊藤先生、岩手の海妻先生に心より感謝したい。JAICOWSの方々も各地から参加して下さい、自然科学研究者の大変さや、民営化図書館の話に聞き入った。米欧アジアからの国際会議のお誘いも引く手あまたとなり、オンラインによる世界のネットワーク形成が進んだことは大きな成果であった。後期にはぜひ白波瀬先生・栗田先生の素晴らしいご講演を楽しみにしている。人の接触を断つコロナがもたらした、人とのネットワークの拡大に、少しほっこりしている。（「コロナは世界をどう変えたか？」については、講談社 Ismedia、<https://gendai.ismedia.jp/articles/-/72177> 参照。他に「コロナと国際政治」を種々の場で講演）

大学を定年退職してかなり年数が経ち、長年続けてきた非常勤講師も昨年度で終了したため、最近では軸足を大学から社会活動に移してきている。私が重点的に行っている活動は、会長を務める一般社団法人のコミュニティネットワーク協会とシニア社会学会、副理事長を務めるNPO 法人高齢社会をよくする女性の会である。それぞれの団体の性別や年齢別構成によって、ICT化の進み具合が違っているのは興味深い。

会員が少なく、比較的年齢構成が若いコミュニティネットワーク協会では、早々にオンラインで総会を開催した。男性が多く、30～80代と広い年齢層をカバーするシニア社会学会では、メールで総会を実施した。運営委員会メンバーでお試しをしたところ、URLが開けない、添付を開いたら文字化けした、送信の方法がわからないなどてんやわんや。何とか全会員にメールで資料を送付したが、不通の人が少なくなかった。最大の原因は、退職や転職してメールアドレスが変わったのに届け出ていない人がかなりいたことだった。

会員数が多く、しかもほぼ全員が高齢女性という高齢社会をよくする女性の会では、書面による総会を実施したが、資料の印刷代や郵送費にかなりを費やすことになった。会員にはパソコンもスマホも持たない人が多数を占め、ICT化には程遠い状況にある。新型コロナの感染拡大は、社会活動においてもICTを促進することは確かである。

「春すぎて夏きにけらし白妙の……」 作者はダンスが好きだった

国枝 たか子（比較舞踊学会、国際女性スポーツ学会）

娘時代は楽しいことに心が傾いて、勉学にはあまり成果が出なかった。しかし一生を通じてつきあう親友を得たと思う。共に馬鹿げた遊びや、くだらないサークル活動、ヒッチハイクなど危険な旅行を楽しんでいた。

国家公務員の研究者になってからは、すべての経験が生きることになった。地球を三周して実地調査を重ね、足で歩いて史料をゲットした。その中に中国・唐時代の高宗（649年即位）と妻である則天武后（690年即位）の墓のデータがある。巨大な墳墓は双子のようにそびえ立っていたが、わずかししか発掘されていなかった。入口からトンネルを進むと、壁に悪戯書きが彫ってある。日本の聖徳太子と同じ服を着た唐の役人たちが酒宴に酔いどれて乱れた有様だ。唱う者もあり、踊る者もいる。楽しさが伝わるイタズラ書きである。これは研究者の勘だが、二人の皇帝の巨大な二つの墳墓が発掘されれば、エジプトのピラミッドの埋蔵物を凌ぐ文物が現れるだろう。歴史は書き換えられるかもしれない。

それにしてもコロナ騒ぎの三か月は勉強に徹した。唐時代・隋時代に相当する「日本古代」について夢中で調べ直した。推古天皇（593年即位）、持統天皇（690年即位）がダンスを愛して、宮廷の宴や儀式で上演し、ダンサー養成の役所を造り、外交の場で百濟（朝鮮）や隋・唐（中国）の人々にも躍らせて、おおいに楽しんでいたことが分かった。日本外交の成果に結びついていたようだ。実に面白い。研究をすすめながら大喜びしているのは、私だけであろうか？

コロナの日々

小浜 正子（日本大学）

中国研究者である筆者にとって、コロナは初め、研究対象たる中国社会の出来事だった。他人事でなくなったのは、年度が替わって日本の大学も教室授業が出来なくなってからである。Zoom やら Webex やらオンデマンド録画といった、これまで縁のなかったものを強制学習する羽目になり、おかげで前世紀のままだった私のITスキルはかなりアップデートされた。子供の保育園や学校が休みになった研究仲間は本当に大変そうだが、我が家は皆、自分のペースで在宅ワークが出来ている。医療衛生は私の研究の隣接分野なので、こういう時はと急遽、中国の感染症の歴史をネット越しに講じ、あるいはコロナ

ウィルス禍にジェンダーがいかに関係するかを論じた。慣れない方法で新しい内容まで教えようとするものだから、授業は当然悲惨な自転車操業である。学生は暇だからか不安だからか、例年よりずっと真面目に勉強している（あんた達、やればできるじゃん！）。ならば課題の点検などもちゃんとやらざるを得ず、長時間PCに張り付いて肩こりと眼精疲労の日々である。後期もこれが続きそうのため息が出るが、after コロナだか with コロナだかの社会の在り方はこうした中から見えてくるのだろうと念じて、今日もPCに向き合っている。

新入会員について

新規入会者は栗田禎子（千葉大学）、海妻径子（岩手大学）のお二人で、いずれも新役員になってくださいました。早速仕事をさせていただいています。ありがとうございます。

* 2020 年度会費振り込みがまだの方、是非お振込みをどうぞよろしく願いいたします！

（この号は、直井道子が係りでした。）

JAICOWSの事務局が変わりました!!

女性科学研究者の環境改善に関する懇談会（JAICOWS）

事務局

〒020-8550 岩手県盛岡市上田 3-18-34 岩手大学人文社会科学部 海妻径子研究室
Tel/Fax: 019-621-6750（研究室直通） E-mail: kkaizuma@iwate-u.ac.jp

会計・名簿管理本部

〒150-8366 東京都渋谷区渋谷 4-4-25 青山学院大学国際政治経済学部 羽場久美子研究室（JAICOWS会長）
Tel/Fax: 03-3409-8532 E-mail: jaicows@gmail.com

郵便振替

ゆうちょ銀行口座：00160-5-421146 店名 019（ゼロイチキユウ）店、当座、口座番号 421146
口座名義：女性科学研究者の環境改善に関する懇談会

